

1. 報告 「第1回 札幌市がん対策部会（子宮がん対策）の振り返り」①

資料 1-1

○ 1-1 開催概要

・日時 令和3年11月12日（金） 19:00～20:30

・会場 札幌市保健所（WEST19ビル 2階 研修室A）

・出席委員（部会長、副部会長以下五十音順、敬称略）

部会長	公益財団法人 札幌市医師会 地域保健部長	後藤 数智
副部会長	北海道大学 名誉教授	櫻木 範明
	公益財団法人 北海道対がん協会 細胞診センター長	岡元 一平
	札幌市産婦人科医会 会長	西川 鑑
	北海道産婦人科医会 会長	晴山 仁志

- ・議題 1 「子宮がんの概要、札幌市子宮がん検診の現状」
- 2 「札幌市子宮がん検診未受診者対策事業及び実施にかかる検討事項」

1. 報告 「第1回 札幌市がん対策部会（子宮がん対策）の振り返り」 ②

資料 1-2

○ 1-2 議事概要

▷ 議題1 「子宮がんの概要、札幌市子宮がん検診の現状」

- (1) 資料 「子宮がんの概要、札幌市子宮がん検診の現状」
- (2) 事務局説明 子宮がんの概要、各種統計、札幌市子宮がん検診の現状、市民アンケートの結果について
- (3) 主な発言
 - 今後、市民に情報を提供する際には、上皮内がんの情報も合わせて伝えるのが望ましい
 - 無料クーポン券の対象年齢は、より効果が望める年齢への実施を検討してもらいたい

▷ 議題2 「札幌市子宮がん検診未受診者対策事業及び実施にかかる検討事項」

- (1) 資料 「札幌市子宮がん検診未受診者対策事業及び実施にかかる検討事項」
- (2) 事務局説明 検診未受診者への対策として実施を予定しているHPV自己採取検査の概要、及び実施に必要な各検討事項（対象者、フォローアップ、アンケート、評価）について
- (3) 主な発言
 - HPV検査で陽性になった方を細胞診に結び付けて、その精度管理を行う仕組みを考えることが重要
 - 細胞診との組み合わせも必要であり、HPV検査はリスク判定のような考えが良いのではないか
 - HPV検査をする場合、20歳過ぎてすぐの方は疑陽性が多いので、初期のCIN2くらいの判定を中心に考えるなら25歳くらいの方に実施する方が良い
 - 海外では30歳以上だが、ワクチンの接種が進んでいない日本で実施する場合は25歳で行うメリットはある
 - 検査で問題ないという結果になると、今後の細胞診を受けなくなることがある。検査キットの選定や結果通知の仕方は戦略的に考えた方が良い
 - コロナで受診率が落ちている。子宮がんは浸潤がんまで数年かかるので影響は少ないが、今後増えないための対策が必要

○ 1-3 次回（第2回部会）の開催について

事務局より、実施要領案の確認および意見を求める書面での開催を提案し、了承を得た